

サン＝サーンス：チェロ協奏曲第1番 イ短調 作品33*

ブルッフ：ヴァイオリン協奏曲第1番 ト短調 作品26**

ムソルグスキー：組曲「展覧会の絵」(M. ラヴェルによる管弦楽版)

※曲目は変更となる場合がございます。

New Year
Concert
2016

2016年1月17日(日)

14:00開演 (13:15開場)

サントリーホール

横坂 源*

(チェロ)

Gen Yokosaka, cello

木嶋真優**

(ヴァイオリン)

Mayu Kishima, violin

大友直人

(指揮)

Naoto Otomo, conductor

東京都交響楽団

(管弦楽)

Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra

S席：¥6,000 / A席：¥4,000

B席：¥3,000 / P席：¥2,000

※未就学児入場不可 全席指定・税込 [P席はステージ後方の座席です]

プレイガイド：イープラス eplus.jp

チケットぴあ (Pコード：272-719) t.pia.jp 0570-02-9999

サントリーホールチケットセンター 0570-55-0017 (休館日を除く10-18時)

都響ガイド 03-3822-0727 (平日10-18時)

コンサートの収益金は、
日本赤十字社へ寄付され、
血液運搬車の購入・
整備資金に充てられます。

主催・お問い合わせ：Sony Music Foundation (公益財団法人ソニー音楽財団) 03-5227-5233 (平日10-18時) www.smf.or.jp

共催：公益財団法人東京都交響楽団 協賛：ミキモトグループ【株式会社ミキモト/株式会社御木本真珠島/御木本製薬株式会社】 後援：日本赤十字社

献血は、誰か見知らぬ人の、たった一つしかない命の支えに、自分のための血液を分かち合う“命の贈り物”です。

本企画は、HIV/AIDS問題をきっかけに大きく社会問題化された「献血」に対する認識をより一層高めるために1990年より定期的に開催しており、1999年には「献血思想」の普及や献血推進運動の進歩発展に特に優れた功績のあった個人・団体に贈られる最高の賞である「昭和天皇記念献血推進賞」を受賞しました。

現在、献血された血液によって大変多くの尊い命が救われている一方、国内で必要な血液の一部を輸入に頼っていることが、長きにわたり日本で大きな社会問題となっています。また、2011年3月の未曾有の大震災では多くの尊い命が失われ、その後国内外においても数多くのチャリティ・コンサート等が開催されていますが、当公演の収益は、どんな非常時においても、誰でも、いつでも、安全に献血で治療を受けられる環境がより整うことを願い、“血液運搬車の購入・整備等の血液事業への充当”に目的を限定して日本赤十字社に寄付いたします。

このコンサートの主旨をひとりでも多くの方にご理解いただき、是非ご来場くださいますようお願い申し上げます。

公益財団法人ソニー音楽財団

2014年度(第51回)までの累計寄付総額：94,255,892円

横坂 源(チェロ)

Gen Yokosaka, cello



桐朋学園女子高等学校(男女共学)、同ソリストティプロマ・コースを経て、シュトゥットガルト国立音楽大学、並びにフライブルク国立音楽大学で研鑽を積む。

2002年、15歳で全日本ビバホール・チェロコンクール最年少優勝受賞、2010年ミュンヘン国際音楽コンクール第2位。その他、出光音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、ホテルオークラ音楽賞など多数受賞。室内楽部門では、2009年に全ドイツ学生音楽コンクールで第1位を受賞。

1999年、13歳で東京交響楽団とサン＝サーンスのチェロ協奏曲を共演したのを皮切りに、国内外主要オーケストラと多数共演し好評を博している。また、室内楽奏者としても、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン、東京・春・音楽祭、宮崎国際音楽祭、武生国際音楽祭など多数出演

している。これまでに、鷲尾勝郎、毛利伯郎、ジャン＝ギャン・ケラスの各氏に師事。

ビエール・ブーレーズ指揮ルツェルンフェスティバル・アカデミーに18歳で参加して以来、現代音楽にも強い関心を示している。サントリーホールディングス株式会社所有の1710年 Pietro Giacomo Rogeri 制作のチェロを貸与されている。

オフィシャル・サイト <http://yokosaka-gen.com/>

木嶋真優(ヴァイオリン)

Mayu Kishima, violin



©Keiichi Suto

神戸生まれ。3歳でヴァイオリンを始める。

2000年第8回ヴィエニャフスキ国際ヴァイオリン・コンクール・ジュニア部門にて日本人として最年少の13歳で最高位(1位なし第2位)を受賞。2011年ケルン国際音楽コンクールのヴァイオリン部門で優勝、あわせてその優れた音楽的解釈に対しDavid Garrett賞も受賞した。

2004年6月モスクワでスピリコフ指揮ロシアナショナル・フィルと共演し、地元紙では、「巨匠 ロストロポーヴィッチが『世界で最も優れた若手ヴァイオリニスト』と絶賛するにふさわしく、見事なテクニックと成熟した解釈で聴衆を圧倒した。」と評される。

レコーディングは、NHK交響楽団音楽監督に就任したウラディーミル・アシュケナージから強い推薦を受け、「アシュケナージ & NHK交響楽団」

の“ツイガース”に参加。そのほかソロCDは「シャコンヌ」、「Rise」をリリース。

現在ヨーロッパを中心に活動を展開し、ルガノのマルタ・アルゲリッチ音楽祭、サイトウ・キネン・オーケストラ、水戸室内管弦楽団等へ参加している。

オフィシャル・サイト <http://kishimamayu.seesaa.net/>

大友直人(指揮)

Naoto Otomo, conductor



©Rowland Kirishima

桐朋学園大学を卒業。指揮を小澤征爾、秋山和慶、尾高忠明、岡部守弘各氏に師事した。桐朋学園大学在学中からNHK交響楽団の指揮研究員となり、22歳で楽団推薦によりNHK交響楽団を指揮してデビュー。現在、群馬交響楽団音楽監督、東京交響楽団名誉客演指揮者、京都市交響楽団桂冠指揮者、琉球交響楽団ミュージックアドバイザー。また、2004年から8年間にわたり、東京文化会館の初代音楽監督を務めた。

在京オーケストラの定期演奏会にとどまらず、2012年3月にはハワイ交響楽団のオープニングコンサートを指揮、以降定期的に客演し、同年6月にはロレーヌ国立管弦楽団の定期公演に客演、絶賛を博す。2013年にはエネスク国際音楽祭に招かれ「弦楽八重奏op.7」を演奏。“繰り返し演奏されているが、今回の演奏は最高の演奏”“日本のオーケストラ演奏が西洋音楽への新しい希望を見出した。”と評され、欧米での活躍にも大きな期待が寄せられている。

第8回渡邊曉雄音楽基金音楽賞(2000年)、第7回齋藤秀雄メモリアル基金賞(2008年)を受賞。

オフィシャル・サイト <http://www.kajimotomusic.com/jp/artists/k=45/>

東京都交響楽団(管弦楽)

Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra

東京オリンピックの記念文化事業として1965年東京都が設立(略称：都響)。

2015年に創立50周年を迎え、大野和士が音楽監督、小泉和裕が終身名誉指揮者、エリアフ・インバルが桂冠指揮者、ヤクブ・フルシャが首席客演指揮者を務める。定期演奏会などを中心に、小中学生への音楽鑑賞教室(約60回/年)、青少年への音楽普及プログラム、多摩・島しょ地域での訪問演奏、ハンディキャップを持つ方のための「ふれあいコンサート」や福祉施設での出張演奏など、多彩な活動を展開。

《首都東京の音楽大使》として、これまで欧米やアジアで公演を成功させ、国際的な評価を得ており、2015年11月にはベルリン、ウィーンなど5ヶ国6都市をめぐるヨーロッパツアー(指揮：音楽監督・大野和士)を行い、細川俊夫の委嘱新作などを演奏する。

受賞歴に、「第6回京都音楽賞大賞」受賞、インバル指揮「ショスタコーヴィチ：交響曲第4番」での第50回レコード・アカデミー賞〈交響曲部門〉および第25回ミュージック・ペンクラブ音楽賞〈コンサート・パフォーマンス賞〉・〈録音・録画作品賞〉など。

オフィシャル・サイト <http://www.tms.or.jp>



MIKIMOTO

株式会社ミキモト・株式会社御木本真珠島・御木本製薬株式会社